

SMD601 盗難防止システム

世界で最も評価されている超高感度型金属探知器を利用した機密情報や貴重品の盗難防止を実現します。



SMD601型金属探知器



IDカードリーダー



解析ソフトウェア

Date Time	Device Name	Direction	Alarm	Alarm Disruption
13/05/2008 11:30:40	SMD 601	OUT	YES	
13/05/2008 11:30:56	SMD 601	IN	NO	
13/05/2008 12:32:24	SMD 601	OUT	YES	
13/05/2008 16:39:37	SMD 601	IN	NO	
13/05/2008 17:05:03	SMD 601	OUT	NO	
13/05/2008 13:25:31	SMD 601	IN	NO	
13/05/2008 12:22:01	SMD 601	OUT	NO	
13/05/2008 06:35:14	SMD 601	IN	NO	
09/05/2008 17:32:04	SMD 601	OUT	NO	
09/05/2008 13:28:19	SMD 601	IN	NO	
09/05/2008 12:37:42	SMD 601	OUT	NO	
09/05/2008 07:45:21	SMD 601	IN	NO	
09/05/2008 17:55:06	SMD 601	OUT	YES	
08/05/2008 13:17:18	SMD 601	IN	NO	
08/05/2008 12:21:46	SMD 601	OUT	NO	
08/05/2008 08:21:06	SMD 601	IN	NO	
07/05/2008 17:34:19	SMD 601	OUT	NO	
07/05/2008 13:21:09	SMD 601	IN	NO	
07/05/2008 12:41:21	SMD 601	OUT	NO	
07/05/2008 08:21:41	SMD 601	IN	NO	
06/05/2008 17:26:51	SMD 601	OUT	NO	
06/05/2008 13:26:52	SMD 601	IN	NO	

登録データとの誤差

SMD601盗難防止システム

はじめに

SMD601盗難防止システムは、金属物の盗難、又は、偶発的な持ち出しを防止します。人が金属探知器を通ると、その通った際の金属反応情報がシステムのデータベースに毎回保存されます。

CEIA社のSMD601型金属探知器は、高度な電磁場技術を駆使して、取り外しが難しい、又は、常時身に付けている義足のようなもの、結婚指輪、ピアスなどを身に着けた人が正常にゲートを通過した場合、絶えず安定した金属反応を示します。

CEIAのSMD601の技術ならではの特徴で、その人が普段身に付けていると思われる金属量を把握し、個人のプロフィールとして残します。毎回、ゲートを通過する際の金属データは、データベース上に蓄積された個人のプロフィールと比較されます。前回の通過と比較して著しい違いがあった場合、ソフトウェアによって違いがハイライトされます。

個人の金属データのプロフィールは、暗号化されてネットワークを通じて送信されて保存されます。

SMD601のプロファイリング技術により、これらの対象物を探知しつつ、取り外しが難しい私物金属物を無視することができます。

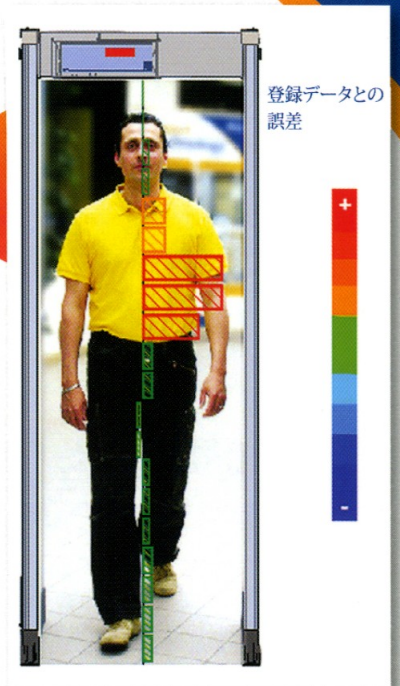


▶ 探知するターゲットの参考例

利点と優位点

- 非常に小さな金属ターゲットも探知する最高レベルの感度
- 盗難探知と抑止により損害を大きく軽減します
- 自動スクリーニングによりセキュリティチェックポイントでの人の流れを改善します
- 手によるボディチェックを無くし、身体的プライバシーを向上
- 全ての盗難防止検査の視覚的結果を簡単に見返すことが可能
- 高度なレポート機能
統計データの報告書をExcel, PDF, HTMLなどのフォーマットで提供可能
- ネットワークを通してCEIAのSMD601型金属探知器の遠隔管理、故障診断およびメンテナンスが可能

金属探知の検査結果が視覚的に見える



▶ 金属物の位置とサイズが大きくて明確に表示される

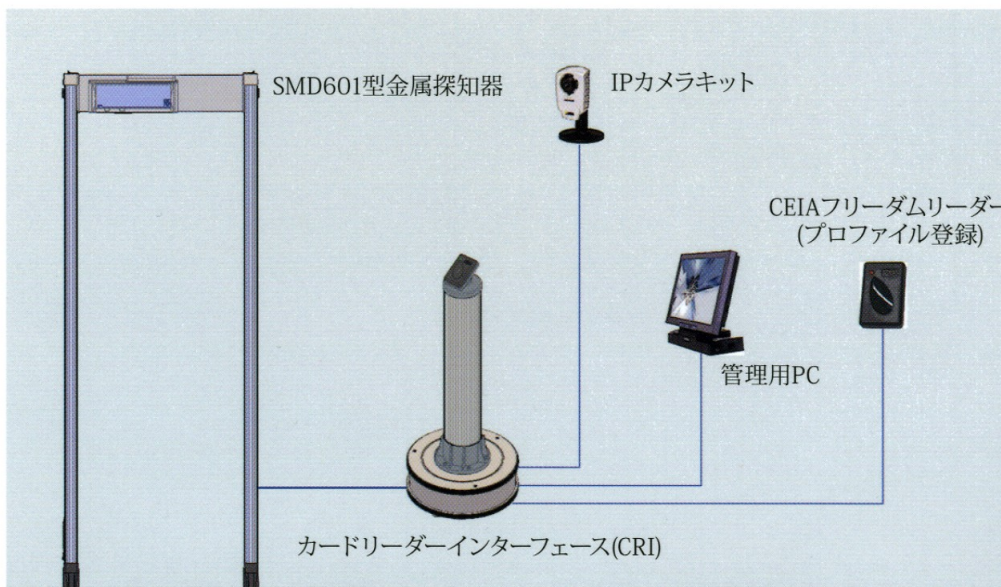
基本構成

基本システムは、1方向、又は、2方向用のカードリーダーを制御するCEIAカードリーダーインターフェイス (CRI)を通してネットワークに接続する1台のSMD601で構成されています。

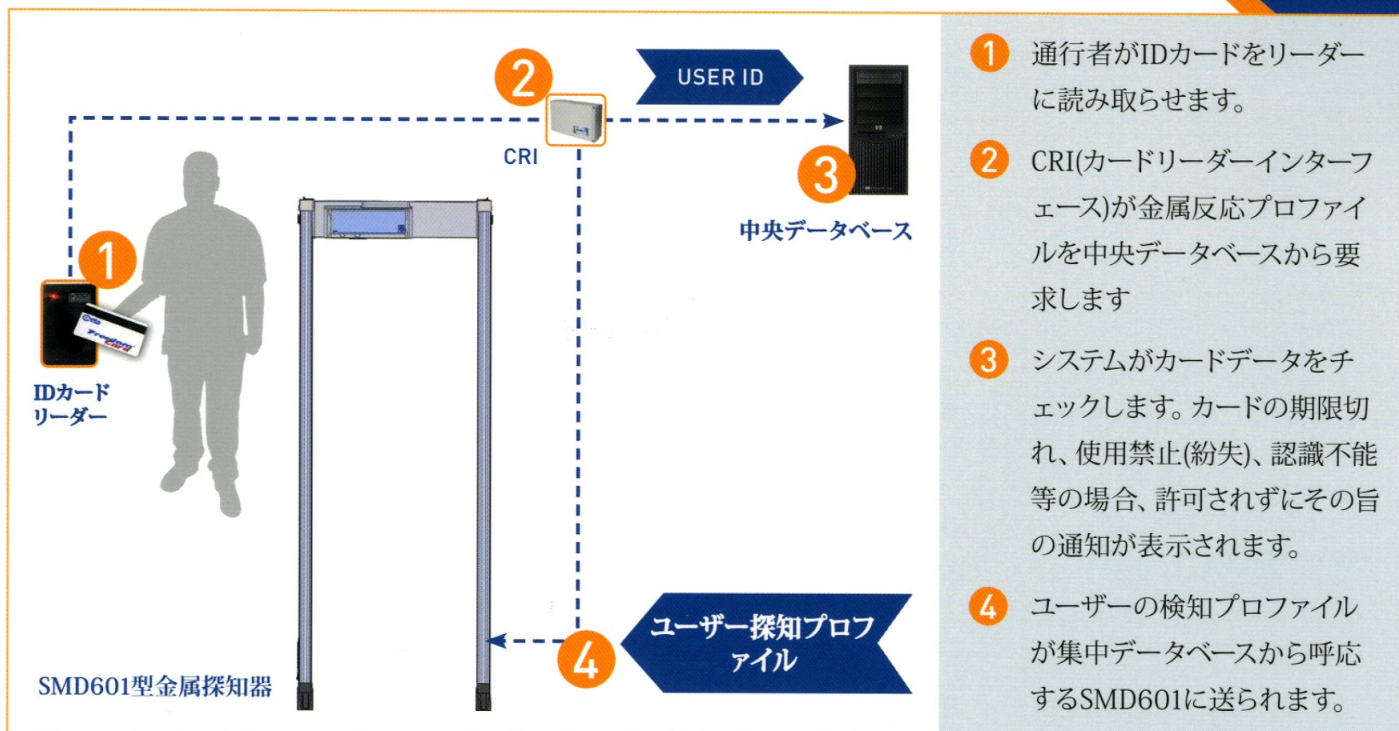
CEIA CRIは如何なるIDカードリーダーにも対応しています。CRIは、イーサネット及びIPネットワークを介して

CEIAのアクセスコントロールソフトウェアとデータベースのに入った中央サーバーと暗号化されたチャンネルを通して通信します。

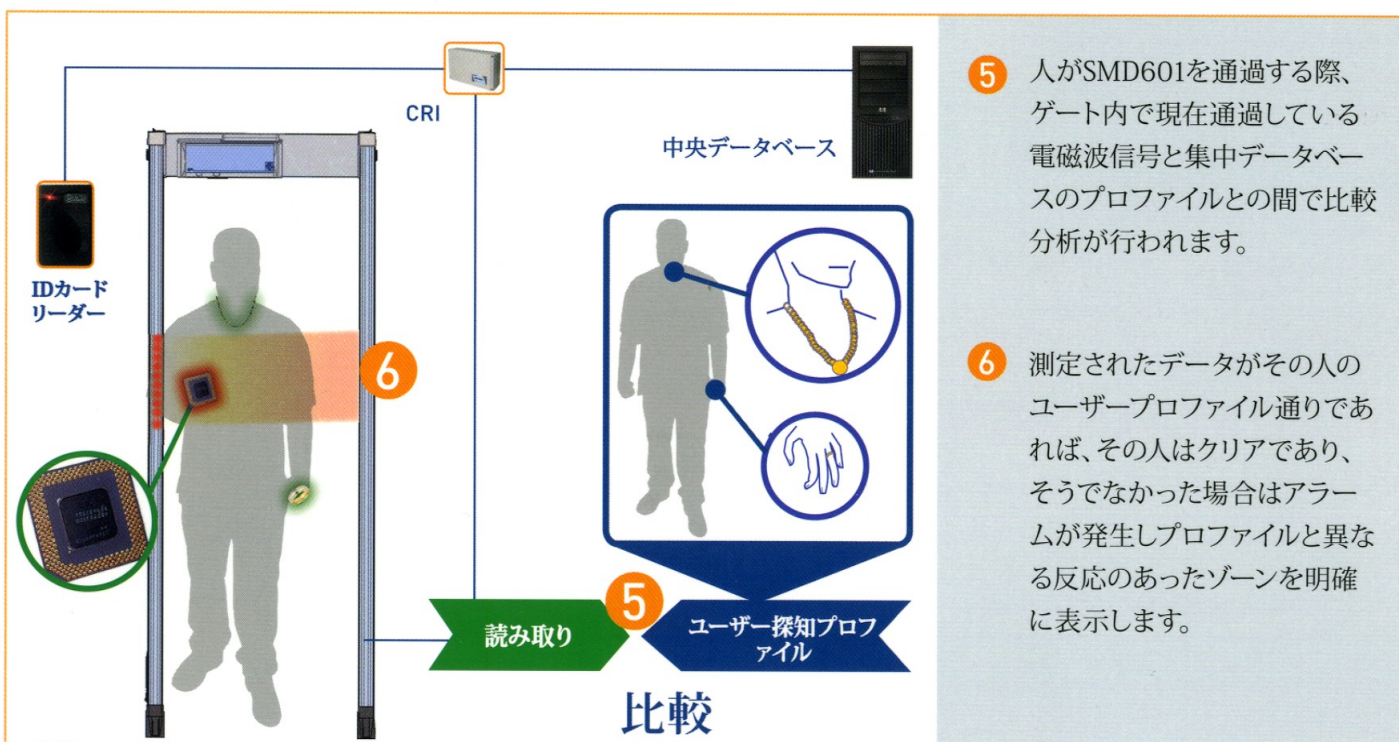
複数の盗難防止用チェックポイントを設けて、一つのPC又はサーバーで一括集中管理することも可能です。



運用手順



- 1 通行者がIDカードをリーダーに読み取らせます。
- 2 CRI(カードリーダーインターフェース)が金属反応プロファイルを中央データベースから要求します
- 3 システムがカードデータをチェックします。カードの期限切れ、使用禁止(紛失)、認識不能等の場合、許可されずにその旨の通知が表示されます。
- 4 ユーザーの検知プロファイルが集中データベースから呼応するSMD601に送られます。



- 5 人がSMD601を通過する際、ゲート内で現在通過している電磁波信号と集中データベースのプロファイルとの間で比較分析が行われます。
- 6 測定されたデータがその人のユーザープロフィール通りであれば、その人はクリアであり、そうでなかった場合はアラームが発生しプロフィールと異なる反応のあったゾーンを明確に表示します。